

～緩和ケアとは～

WHOは、緩和ケアを以下のように定義しています。

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処を行う事によって、苦しみを予防し、和らげることでQOLを改善するアプローチである。

当院では、平成18年度に緩和ケアチームが発足し、2014年5月のがん診療サポートチーム（以下「がんサポ」と言う。）として改称し、今年で14年目になります。

がんサポの構成メンバーは、菅原 浩医師、村上 祥子緩和ケア認定看護師、阿部美佐緒薬剤師、茂木香奈子管理栄養士、永嶋美幸臨床心理士（金曜のみ）です。毎週月、水、金曜日に回診を行っています。

平成30年度からは、がんサポの介入回診の対象に心不全の患者さんも加わりました。

また、管理栄養士ががんサポに参加して、緩和ケアを提供した場合の評価として、個別栄養食事管理加算も新設されました。

更に、平成30年度より臨床心理士の永嶋美幸さんもメンバーに加わり、がん患者さんの精神的支援も充実しました。

がんサポの介入内容は、疼痛マネジメント、疼痛以外の身体症状のマネジメント、不隠・せん妄などの精神症状、傾聴などの支援、スピリチュアルケア、家族支援と多岐にわたります。

緩和ケアはがん終末期のみに提供されるものではなく、がんと診断されたときから治療と並行して行われるものです。

「あれ？この患者さん、緩和ケアが必要かも？」と感じましたら、ぜひご相談下さい。



ながしまみゆき

～臨床心理士 永嶋美幸さんの紹介～

がんなどの病気にかかり、入院・療養等で家庭生活や社会生活が変化すると、多くの方が様々な不安を抱えて生活することになります。中には、気分の落ち込み（抑うつ感）や、イライラ（焦燥感）、眠れない（不眠）といった症状で悩む方もいます。臨床心理士は、このような様々な痛みやつらさをサポートするため、患者さんやご家族のお話を聴かせていただきながら、自分の気持ちに気づいたり、考えを整理したり、日々を自分らしく過ごすためのお手伝いをさせていただきます。

また、ケアに当たる医療スタッフも、時に患者さんやご家族の言動に悩まれることがあるかと思います。専門家の立場から、患者さんやご家族の行動の背景にある「心」を理解し、対応を考えるためのサポートもさせていただきます。

どうぞお気軽にお声がけください。

※臨床心理士とは、（財）日本臨床心理士資格認定協会の認定を受けている心理専門職です。心理学の知識や諸技法を生かして、専門的に援助します。（一般社団法人 日本臨床心理士会HPより抜粋）

